

被災者による取組事例 〔山形県朝日町〕

1. 地域農業の状況

○ 朝日町は、山形県中央西部、磐梯朝日国立公園の朝日連峰の東麓、最上川中流の五百川溪谷と呼ばれる急流部に位置する中山間地域で、面積の大半を国有林である山岳地帯が占める自然豊かな町である。

また、最上川の両岸に沿った河岸段丘は、特産のりんごをはじめとする果樹・作物の栽培に適した肥沃な土地である。

○ 気候は、夏は蒸し暑い日中・涼しい夜間が多く、冬は寒い日が多い積雪地帯で、気温比較差や寒暖差が大きく、高品質な果実の栽培に好適とされる。

○ 一方、農地面積の多くが中山間地域であり、これらの地域では兼業農家が多いが、他産業の雇用が少ないことから若者世代の流出による担い手不足により、果樹園やホップ・たばこ団地として利用していた農地が、集団的な耕作放棄地となっている。

<位置図>



耕地面積	1,270ha
田耕地面積	587ha
畑耕地面積	686ha
総農家数	960戸
自給的農家数	449戸
販売農家数	511戸



【再生作業】

資料：耕地面積統計(H26)、2010年農林業センサス(農林水産省)

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	新規就農者
再生面積	1ha(経営面積1.4ha)
作付作物	りんご、もも

地区名	常盤(ときわ)地区
取組年次	平成25年
販路	農協出荷及び直売

(1) 就農の動機

○ 東日本大震災で故郷の住まいを追われ、知人の勧めで山形県白鷹町に移住。前職は建設業であったが、これまで兼業農家である義父の農作業を手伝っていたことや農業に関心があったことから就農を決意。

また、以前に朝日町をドライブした際、目にしたりりんご栽培に興味を抱き、「朝日町農業研修生受入協議会」で研修を受け、農業を職業とした。

(2) 農地の再生について

○ 前職の経験を生かし、耕作放棄地を自ら重機で再生したり、作業しやすいように道路を切り拓くなど、すべて一からの作業であったが、特に苦労もなく楽しく再生作業を行うことができた。

(3) 将来目指す農業経営

○ りんご、もも、ラ・フランス等の果樹を中心に、ニーズに合わせた品種を苗木から育てるとともに、付近の成木園地を借り受けて計画的に品種・収量を増やす予定。

また、これまでの接客業・建設業での人脈を生かしたり、避難前の浪江町で、中元・歳暮等の贈答用の直接販売で販路の拡大を図る。



活用した支援策

H25 被災者営農継続支援耕作放棄地活用事業交付金(国)(再生作業・土壌改良・営農定着)
H25 青年就農給付金(国)